

こちら営農・技術センター
農薬研究部

テクリードCフロアブルのイネ苗立枯病 (リゾープス菌、トリコデルマ菌) に対する防除効果

テクリードCフロアブルは、ばか苗病、ごま葉枯病、いもち病などのイネの主要な種子伝染性糸状菌病害に効果が高く、また、褐条病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病など近年問題となっている種子伝染性細菌病害をも防除できる総合種子消毒剤として、1993年の発売以来、順調に普及拡大されている。

リゾープス菌、トリコデルマ菌によるイネ苗立枯病

本剤の有効成分イブコナゾールは、非常に広い抗菌スペクトラムを示し、上記の糸状菌以外にも、リゾープス菌、トリコデルマ菌などのイネに苗立枯病を起こす病原菌に対して抗菌活性が高いことが知られていた。

これらの苗立枯病は、土壌伝染または空気伝染によって伝播し、播種出芽後の幼苗を侵して、生育不良やひどい場合には枯死を引き起こす(写真-1)。どちらの病害も、高温で多湿気味に出芽管理した場合に発生しやすい。従来、本病はリゾープス菌については、ダコニール粉剤の培土混和やダコニール1000の播種時灌注処理によって、トリコデルマ菌については、ベンレート水和剤の播種時あるいは緑化期の灌注処理により防除してきた。

テクリード剤の 苗立枯病への適用拡大

全農では、本剤の原体メーカー呉羽化学および製剤メーカークミアイ化学と共同で、テクリード剤の種子消毒によるリゾープス菌およびトリコデルマ菌が引き起こす苗立枯病防除の可能性を検討してきた。その結果、テクリード剤の種子消毒のみで、これらの苗立枯病に対して高い防除効果が認められた(写真-1、表-1)。日本植物防疫協会の委託試験でも実用性が認められ、適

用病害拡大申請をおこなった。そして、テクリード水和剤、乳剤は、昨年9月に適用拡大が認可され、テクリードCフロアブルも近々に適用拡大が認可される見込みである。

なぜ種子消毒によって土壌もしくは空気伝染する病害に有効であるかは、まだくわしくは検討していないが、種子に付着した有効成分(イブコナゾール)が播種後に、一部は土壌中に拡散し、一部は幼芽に吸収されて、防除効果を発揮するものと想定される。

総合種子消毒剤 テクリードCフロアブル

この結果、テクリードCフロアブルは、種子消毒のみで、6種類の種子伝染性病害と2種類の苗立枯病を同時に防除することが可能な薬剤となるわけで、総合種子消毒

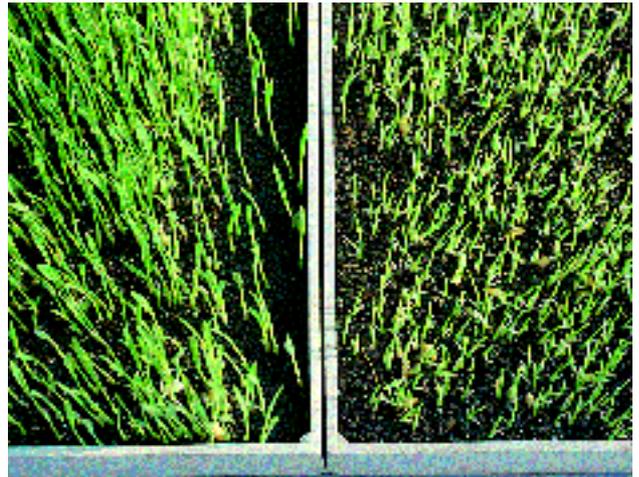


写真-1 リゾープス菌の発病
 (左: テクリードC処理、右: 無処理)

剤としての位置づけはますます確固たるものとなるであろう。

ただし、イネの育苗期間中に発生する苗立枯病には、上記のリゾープス菌およびトリコデルマ菌によるもののほかにピシウム菌やリゾクトリア菌によるものなどがあり、それらに対しては発生状況に応じて、タチガレエース剤やバリダシン液剤などによる防除が必要である。

表-1 テクリード剤のイネ苗立枯病(トリコデルマ菌)に対する防除効果

供試薬剤	処理方法	着菌苗立(%)	防除価
デクリード水和剤	200倍24時間浸漬	5.0abc* ¹	89.1
	20倍10分間浸漬	5.7abc	87.6
	0.5%湿粉衣	3.3abc	92.7
	7.5倍3%塗沫	6.7bc	85.4
テクリード乳剤	500倍24時間浸漬	2.7abc	94.2
	50倍10分間浸漬	2.0ab	95.6
	20倍3%塗沫	3.0abc	93.4
テクリードCフロアブル	200倍24時間浸漬	4.3abc	90.5
	20倍10分間浸漬	6.3abc	86.1
	7.5倍3%塗沫	1.7a	96.4
	4倍2%塗沫	2.3ab	94.9
	原液0.5%塗沫(水2%で種物を過湿)	4.0abc	91.2
原液0.5%塗沫(水5%で種物を過湿)	4.3abc	90.5	
ベンレート水和剤	500倍, 500ml箱播種時灌中	7.3c	83.9
	接種・無処理	45.7d	-
無接種・無処理* ²	-	0.7	-

*1: 同一英字を付した平均値間にはDuncan's multiple range test (P=0.05) による有意差がない。
 *2: 無接種区は統計処理から除外した。

DESK MEMO

1997年の年が明けた。去年の1年間は本当に早く過ぎ去っていったような気がする。歳のせいかなと思ったりしているが、必ずしもそうではなさそうだ。要するに仕事が次から次とあり(有り難いことだが)1日が終わるのが早く、1週間があつという間に過ぎ去ってしまう。それに、2月から平塚に勤務を移し、仕事の身が変わったことや往復3時間半かかる通勤時間などで、生活環境が変

わったことも影響している。去年のうちにやらねばならなかった広報・情報の課題を結局、時間不足で、本年に持ち越してしまった。1つがこのセンターのロビーにギャラリーを設置すること。2つ目が「アピネス」を利用した小誌の検索システムの作成。3つ目がインターネットのホームページに営農・技術センターを紹介すること。この3つの課題は本年の早い時期に完成させたいと思っている。本年もなにとぞご支援を。
 【次号のテーマ】キャベツづくり